

『やんばる自然保護官事務所の取り組み』

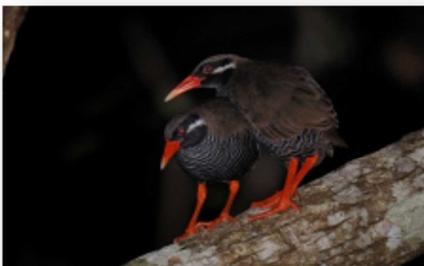
環境省やんばる自然保護官事務所（やんばる野生生物保護センター）
自然保護官 山本以智人

沖縄島北部の通称やんばると呼ばれる地域には、ヤンバルクイナやノグチゲラといった世界中でやんばるにしかいない固有種と呼ばれる生き物が多く生息しています。地史的にみると沖縄島は中国大陸や日本本土から切り離されて少なくとも 170 万年という長い時間が経過していると考えられており、この間に様々な生き物が独自の進化を遂げました。ヤンバルクイナは天敵となる中大型の哺乳類が生息していなかったため、空を飛ぶことをやめ、日本国内で唯一の飛べない鳥として進化しました。私達は、こうした世界に誇れる自然が身近にあることを伝えていくとともに、固有な生態系に影響を及ぼしている外来生物のマンガースの防除や、希少種の保護増殖といった取り組みを行っています。



もうひとつ、私たちの大事な取り組みは、こうしたやんばるの豊かな自然を活かして、持続的に地域を発展させる手伝いをすることです。やんばるの魅力の一つは、自然と一体となった文化があり、自然とともに人々の生活があることです。やんばるではシヌグやウンジャミ、豊年祭といった自然と密接に関わる伝統行事が今も残っています。これは自然から恵みを受取り、自然に感謝しながら生活をしてきたことを表していると思います。昔から自然が生活の一部であり、その厳しさや大切さを分かっていたからこそ、こうした文化が継承されているのでしょう。つまり、やんばるの文化は豊かな自然に根ざしたもので、豊かな生態系が、やんばるの魅力を作ってきたと言っても過言ではないと思います。

それは今も変わりません。やんばるの森や海にすむ鳥、昆虫、魚などのさまざまな生き物の一つひとつが、重要なやんばるの自然の構成要素であり魅力です。これを後世にわたり守りながら持続的に地域の発展に活用していくことが必要だと考えます。自然は適切に活用すれば将来にわたって持続的に維持することができます。今後は、さらに効果的な保全と魅力的な利用を行うことで、今まで以上にやんばる地域の活性化も図れると考えています。そのための方法を地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。豊かなやんばるの自然を将来の世代に残し、いつの日か次の世代に喜んでもらえるようこれからも日々努力して参ります。



沖縄はうりずんの季節を迎え、やんばるは新緑に爽やかな風が吹く季節となりました。ぜひやんばるに足を運んでいただき、改めてやんばるの自然を五感で感じていただければ幸いです。